

第18回ピッチイベントの施設管理者ニーズ

テーマ No. 1 : 道路付属物のタブレット端末等を活用した点検技術

【理 由】

職員による点検を行っている小規模付属物は、現地調査後、手入力で写真、点検結果を入力しており時間を要している。

【条件等】

- ◇技術が豊富でない職員であっても現地で点検が完了できる仕様
- ◇極力費用が安価な技術
- ◇既存の庁内GISとの連携

テーマ No. 2 : 路面性状調査技術

求める技術と理由	条件等
<p>〔No.2-1〕 路面性状調査の効率化</p> <p>【理 由】</p> <p>1巡目、2巡目は業務委託にて専用車両で実施。3巡目は社会実験としてKYBのシステムで実施。しかし、MRIに留まっていることからひび割れ・轍ぼれ等の技術確立した手法を検討中。</p>	<p>◇パトール車に搭載したシステムで日々のパトロールから路面性状調査を実施したい。</p>
<p>〔No.2-2〕 路面性状調査</p> <p>【理 由】</p> <p>限られた予算の中で舗装の損傷具合や交通量及び地元要望等を踏まえて総合的に修繕箇所を判断し舗装補修を実施しているが、客観的な指標がないため優先順位付けや施工範囲の判断等に苦慮している。</p>	<p>◇直営の道路パトロールでも導入できるような路面性状調査システム</p>
<p>〔No.2-3〕 舗装劣化診断の調査費</p> <p>【理 由】</p> <p>調査費が高価であり修繕費を圧迫している。</p>	<p>◇安価な技術</p>

テーマ No. 3 : 対象の橋梁・横断歩道橋の利用頻度などの把握

【理 由】

集約・撤去に向けた情報収集の方法がない。

【条件等】

- ◇費用を抑えた技術
- ◇橋長に関係なく利用頻度を把握
- ◇車両の種類や歩行者の区分は必須

テーマ No. 4 : 舗装のポットホール対策

【理 由】

ポットホールを常温合材で補修しているが雨が降る度に剥がれる。

【条件等】

- ◇簡易で早急に施工できること

テーマ No. 5 : 防草対策技術	
求める技術と理由	条件等
<p>〔No.5-1〕 道路の防草対策</p> <p>【理 由】</p> <p>毎年数回草刈作業が必要である。</p>	<p>(特になし)</p>
<p>〔No.5-2〕 防草対策の新工法</p> <p>【理 由】</p> <p>道路通行に除草は必須だが、人件費や燃料費の増により年々財政を圧迫する上に高齢化により地元で対応できない箇所が生じてきている。</p>	<p>◇背丈があまり成長しない植物を採用し直営で簡単に施工できる植生シート等の開発</p>